**CASE学習／病の中心は何か**　　荻野哲也

ケース学習をします。
前分析を終えてから統合まで、考えて行きましょう。

全体の流れを俯瞰してみると・・・
①「Case Taking」---＞②「特徴的な症状を捉える」---＞③「前分析」---＞
④「本分析」---＞⑤「統合（病の中心）」---＞⑥Rep.---＞⑦レメディとポーテンシー・ドーズの決定　・・・という流れになります。

「統合」では、数個の過剰書きにして、そのケースにおける「病の中心」を表現してみましょう。

CASE 学習の取り組み方の順序は、以下の通りです。

１．まず、CASE を一読して、ケースから受ける①印象を書き留める。
２．再読して、クライアントの特徴的な点（症状）をピックアップする。
３．ピックアップした特徴的な点の全体を眺める。

４．これらを元に、「前分析」をしてみる。（正確に分からなくても良いです）
②健康度（0～10）
③予後（良いレメディがある時／ない時）は、どうなるか？
④救急性（急性か慢性か～救急性があれば、まずはそこから始める）
⑤治癒を妨げているものの有無は？　　⑥親和性（部位）
⑦マヤズム傾向（Psora Sycosis Syphilis Cancer TB 等）
⑧全体性（CASE での乱れはどこにあり、レメディはいくつ必要になるか？）
⑨バイタリティー

**５．本分析＝「何が癒されるべきか？」（病の中心 Wesen）をとらえる。**
**最終的には、「統合した１文」にまとめます。**
６．「何が癒されるべきか？」から外れない症状を Rubrics として選び、レパートライズ（Rep.）する。
７．Rep.表の候補レメディから、ベストレメディを選ぶ。
８．最終的には、ポーテンシーとドーズを決めて、クライアントに提案する。

さて、CASE 学習では、この教室を出たら、決して、その内容について話すことなく、守秘義務を守って下さい。　　では、始めましょう。